

弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

Kouhei@oh-kouhei.org

皆さん、こんにちわ。秋本番。朝晩は冷え込んできました。くれぐれもご自愛ください。さて、紙上遍路の今年のかわら版。では出

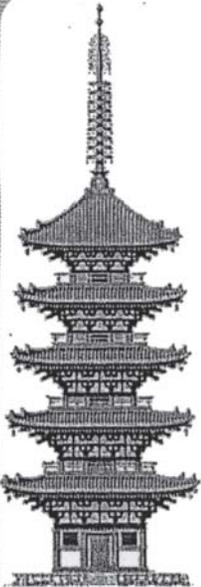
★逆修の五輪塔

土佐市に入り、西に進むと山並みに遭遇。その山腹にあるのが三十五番、**医王山清滝(きよたき)寺**。三十四番、から約十・二キロメートルです。

お大師様の霊験で湧き出た清流は、**ミツマタ**(紙の原料草)をさらし、紙を漉(す)くのに重宝され、この地は**土佐和紙**の産地となりました。

お大師様の十大弟子のひとり、**真如(しんにょ)**がこの寺に**逆修(ぎやくしゅ)**の**五輪塔**を建立。逆修とは、生前に死後の冥福を祈る仏事。

真如は入唐し、インドに向かう途上で逝去。覚悟の上の逆修だったのかもしれない。



たのかもしれない。

★宇佐の大橋

三十五番から宇佐の大橋を渡って約十四・八キロメートル。三十六番は**独鈷山(とっこうざん)青龍寺(しょうりゅうじ)**です。

橋は昭和四十八年完成。それまでは河口に渡し船がありました。お大師様の従者八人がこの地に残り、その子孫がお遍路さんのために渡し船を守ってきたそうです。

お大師様が唐の長安で**惠果(けいか)**和尚に師事したのは**青龍寺(せいりゅうじ)**。日本で寺を作ろうと決意したお大師様が天空に投げた**独鈷(どっこ)**がこの地の老松に掛かっていたのが寺の縁起と言われています。

★峠越えの窪川

三十六番と三十七番の間は約六十キロメートル。歩き遍路なら道中須崎で一泊。須崎はかつての**力(ちから)**ツオ漁の根拠地。**角谷岬**からの景色が美しい景勝地です。

須崎から焼坂峠、中坂峠、七子峠を越えると**窪川**に到着。崖沿いの峠道は車で行っても難所です。

窪川は土讃線の終点。**四万十町**です。標高二七〇メートルの台地の上にある町中に静かにたたずむ三十七番、**藤井山岩本寺**。**聖武天皇**の勅願で**行基**が開基。**天正の兵火**で全山焼失したものの、再興されて今日に至っています。



四国八十八ヶ所霊場マップ(三十五番から、三十九番)

★補陀落東門

三十七番からは約九十キロメートルの行程。四国霊場間の距離では最長。徒歩なら二泊三日か三泊四日。まさしく土佐「**修行の道場**」の真骨頂の先にあるのが三十八番、**蹠陀山(さださん)山**または**足摺山(あしずりさん)山**または**金剛福寺**。境内の広さ十二万平方キロメートルの大道場です。

土佐と言え、東は**室戸岬**、西は**足摺岬**。**四万十川**を渡り、**土佐清水**を経て、**ジョン万次郎**の碑が立つ**中浜**を過ぎて**足摺岬**へ。その断崖絶壁の上に建つのが**金剛福寺**です。

お大師様が岬の先に広がる大海原に**補陀落(ほだらく)**の存在を感得。

補陀落は観世音菩薩が住む理想郷。インド南方の海にあると信じられていました。

★宝医水(ほういすい)

お大師様は**嵯峨天皇**から「**補陀落東門**」の勅額を賜り、寺を建立。戦国時代以降、補陀落を目指してひとり小舟で海に漕ぎ出す「**補陀落渡海**」が広まりました。

ここまで来たら、土佐最後の札所、三十九番、**赤龜山(しゃつきざん)延光寺**まで足を伸ばしましょう。三十八番から約六十キロメートル。ここも長い。

★四万十川と足摺岬

お大師様は、ここで**錫杖(しゃくじょう)**で地面を突いて湧き出た**霊水を宝医水**と命名。今でも眼病に効く**眼洗い井戸**として親しまれています。

今回はよく歩きました。次回はいよいよ**伊与(洒落)**ではあります(ん)。「**菩薩の道場**」と呼ばれる**伊与の札所**は四十番、**平城山観自在寺**からスタートです。乞ご期待。

